

# NIIGATA Central park

～川が舞台、人が主役～



## セントラルパークをつくり2つのまちを1つのまちに

明治：川と共に暮らすまち



水運が主要であったため、堀が張り巡り、川が生活に密着していた。左岸は、川と平行する道「通り」と直する道「小路」で構成され古町を中心に賑わいをみせていた。右岸は北側に沼垂町、南側の砂丘列に鳥屋村があり、周辺は田畑が広がっていた。その両岸を萬代橋が繋いでいた。

将来都市像の提案：セントラルパークを中心とした1つのまち

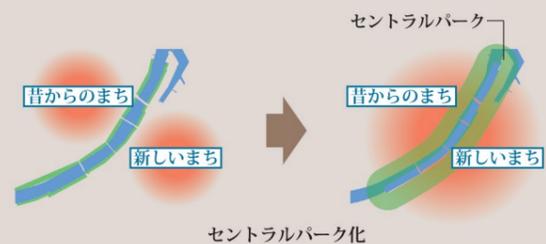


### ●信濃川を公園化してまちの中心にする

昔からのまちと新しいまちの接点となり、空間の広がりのある信濃川沿いを、「都心のセントラルパーク」として位置付ける。信濃川に向き合って成熟してきた新旧のまちを、信濃川を中心に1つのまちとして融合させ、川の恵みを受容できるような親水公園として活用していくことで、セントラルパークを中心とした1つの魅力的なまちとして再生し、川を舞台として市民の誇れる新潟ブランドをつくる。

### ●新たなオープンスペースをつくり、信濃川軸を強化する

セントラルパークの整備により、りゅーとびあから朱鷺メッセ、みなとびあに至る信濃川沿岸に新たなオープンスペースを連担させて、水辺のネットワークを形成することで信濃川軸の強化を図る。新たなオープンスペースは、そこから水と緑がまちへとしみ出す場所となる。



現代：昔からのまちと新しいまち

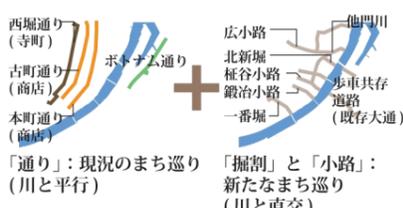


主要交通が鉄道となり、交通の便利な万代地区や駅前周辺地区が発展したが、古町地区は大型店の撤退や空き店舗の増加で衰退し、中心市街地の拠点性が低下してきている。りゅーとびあ、朱鷺メッセなど、信濃川沿いに主要な施設がつけられたが、南北に離れている。

## 個性あふれる「縁凸（えんでこ）」でまちと川をつなぐ

### ■4つのまちの個性を川に引き出す

昔からあるまちと新しいまち、萬代橋の上流と下流で異なる個性豊かな4つのゾーンごとに、まち巡りの歩行者ネットワークの結節点となる新たな水際拠点「縁凸（えんでこ）」をつくり、まちの賑わいを川へ引き出す。  
※えんでこ…方言で「歩いて行こう」の意味。「えんで=歩いて」と「こ=おいで」を表している。



### ■縁凸を起点としてまちを巡る

左岸の歴史的な掘割や小路、右岸の既存の大通りを活用して、縁凸を起点としたまち巡りのルートを新たに設ける。信濃川に平行にまちなかを歩く既存の「通り」に対して直交する動線を付加することにより、回遊性ある歩行者ネットワークを形成する。



## 人が主役となり、川を楽しむ

### ■川舞台を強化する

江戸時代より橋は庶民のハレの日の場として利用されてきた。今日においても、新潟まつりなど様々な祭事に萬代橋が活用され、新潟をイメージさせるシンボルとなっている。萬代橋や縁凸を中心として、四季折々人々が楽しめるイベントを行いながら、川や橋を見る・見られるの関係性を強め、「川が舞台、人が主役」となる場づくりを行う。川には、ブリッジや浮棧橋を新たに設けたり、気軽に利用できる渡し舟を提供することにより、沿岸の回遊性を高める。



### ■親しみやすい日常的な活動の場にする

信濃川沿いの建物低層部を魅力・集客力のあるものとし、信濃川、やすらぎ堤、縁凸が一体となって、水と緑を中心とした界隈性をつくり出す。川を中心として、市民や来街者など多くの人が「集う・巡る・憩う」ことができるようになり、セントラルパークを中心として、安心して川と共に暮らす楽しみを味わえるまちとなる。



## 人が主役となる「にいがたセントラルパーク」歳時記

3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
にいがた冬・食の陣	にいがた春咲きフェスタ	萬代橋チュウリップフェスティバル	★賑わいテラス田植体験	★新たなイベント提案	萬代橋サンセットカフェ	★防災訓練(縁凸)	★賑わいテラス田植収穫祭	★にいがた総おどり(縁凸会場)	★冬の夜景を楽しむ「KORENBO」クルーズ	★信濃川ウォーターシャトル Xmas ディナークルーズ	★にいがた冬・食の陣
				★新沼まつり	★萬代橋感謝祭	★萬代橋感謝祭	★信濃川ウォーターシャトル 八海山クルーズ	★信濃川ウォーターシャトル 八海山クルーズ			★食の陣「当日座」クルーズ

